



名古屋大学環境学研究科・地球規模課題 8

環境と人間のウェルビーイング
Environment and Human Well-Being

参加無料
申し込み



2月28日締切

気候危機と 日常生活の間 SDG1×7×10×13

2026年3月6日(金)15:00~17:30

名古屋大学環境総合館
レクチャーホール
(ハイフレックス開催)

異常気象が新常态となり、世界各地で洪水や山火事が頻発しています。気候崩壊を防ぐために各国はネットゼロ目標を策定し、日本も2050年までの実現を宣言しています。一方、電気料金の高騰により、とりわけ年金生活者や低所得世帯に負担がのしかかっています。気候危機に対する国際的な取り組みと、私たちの日常生活をどのようにつなげていけばよいでしょうか。専門分野を越えて、社会システムのトータルな構想について話し合ってみたいと思います。

Program

15:00 ~ 15:10 趣旨説明 上村泰裕 (環境学研究科准教授)

15:10 ~ 15:40



気候危機に対する国際的な取り組み

金谷有剛 かなや ゆうこう (海洋研究開発機構)

東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程修了。博士(理学)。海洋研究開発機構地球表層システム研究センター・センター長。専門分野は大気化学、地球環境物質科学。IPCC AR6 WG1 第6章のレビューエディター、日本大気化学会会長などを歴任。現在、IPCC AR7 SLCP 方法論報告書リードオーサー、日本学術会議連携会員、Future Earth 国際事務局日本ハブ副事務局長などを務める。

15:40 ~ 16:10



暮らしから考える気候危機

品田知美 しなだ ともみ (社会学者)

早稲田大学理工学部卒業。シンクタンクで環境政策に携わった後、東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了。博士(学術)。駒澤大学ほか非常勤講師。関連する著書に『優しくない地球でひとが生きのびるための80の処方箋』(亜紀書房)、共編著に『気候変動政策の社会学——日本は変わるのか』(昭和堂)、主著に『家事と家族の日常生活——主婦はなぜ暇にならなかったのか』(学文社)などがある。

16:10 ~ 16:40



気候危機と福祉国家

上村泰裕 かみむら やすひろ (名古屋大学)

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程満期退学。博士(社会学)。名古屋大学環境学研究科准教授。専門分野は福祉社会学、比較社会政策論。著書に『福祉のアジア——国際比較から政策構想へ』(名古屋大学出版会)、共編著に『岩波講座社会学第9巻——福祉・社会保障』(岩波書店)、訳書にベラン&マホン『社会政策の考え方——現代世界の見取図』(有斐閣)などがある。

16:50 ~ 17:30 討論